



プロジェクト名：生理で学校に行けなくなる女子学生の教育環境改善事業（ウガンダ共和国）

活動：月経衛生クラブによる生理の衛生管理、性教育、ジェンダー啓発の普及
(活動 2-2-3 生徒から生徒へ行う性教育セッション)

※本レポートでは「Menstrual Hygiene Management (MHM)」を「月経時の衛生管理」と表記する。また、MHM Club のことを「月経衛生クラブ」と表記する。「月経衛生クラブ」とは、月経時の衛生管理・性教育・ジェンダー啓発活動を生徒たち自身で行うクラブ活動のことである。

日時と活動場所：

2018年11月7日 聖ジョセフ・チバリンガ 初等学校

2018年11月8日 プレシヤス・チャイルド・ラーニング・センター

2018年11月9日 ルワウナ初等学校

はじめに

SORAK は女性および男性の主任教員の協力を得て、プロジェクトの対象校 3 校それぞれに、女子生徒 8 名、男子生徒 4 名からなる「月経衛生クラブ」を設立した。このクラブ設立の目的は、生徒達が自ら主体性を持つことで今後も事業が継続するように、生徒から生徒へ伝える手法を用い、月経時の衛生管理教育を月経衛生クラブが率先して推進すること、性教育、ジェンダー啓発の普及を行うことである。対象校 3 校の月経衛生クラブのメンバー（生徒達）は、月経時の衛生管理、性教育、ジェンダー啓発、性と生殖に関する権利に関するトレーニングを受けた後、まず初めに、他の生徒達を対象にジェンダー啓発のセッションを行った。The Primary Leaving Examinations という試験があったため、当初の予定よりも大幅に遅れて 2018 年 11 月に性教育セッションを実施することになった。

トレーニングの目的

生徒たち、特に女子生徒が性的な搾取、並びにセクシャルハラスメントから身を守る能力を身に着けること

活動のプロセス

ファシリテーター（進行役）を担う月経衛生クラブのメンバー（生徒達）は、他の生徒達を対象としたトレーニングで発表するプレゼンテーションの準備をした。発表内容は、対象校 3 校の月経衛生クラブの生徒達に配布されたガイドライン（トレーニングマニュアル）に基づき、男性・女性の主任教員の助けを借りて準備が行われ、教員は生徒たちの指導にもあたった。トレーニングは生徒参加型の形式で実施し、中心となって進行役を行うメンバーと、トレーニングを受講する生徒から挙がる質問への回答を行うメンバーがいた。

トレーニングの内容

各クラブが実施したトレーニングの内容は、以下の通り。

- **性と生殖に関する健康への理解**

月経衛生クラブのメンバー（生徒達）は、性と生殖に関する健康とは何かについて説明し、「肉体的、精神的、社会的に健康な状態であり、病気や疾患がない状態」と定義した。性と生殖に関する健康は、生殖の過程、機能、システム等、人生のすべてのステージに関連している。また、性別、部族、宗教、背景に関わらず、全ての個人が性と生殖に関する健康を求め、享受する権利を持っている。その権利が侵されることで、死に至ることもある。

- **思春期への理解**

対象校 3 校の月経衛生クラブのメンバー（生徒達）は、思春期が何かということについて説明した。思春期とは、男子・女子ともに性的に成熟することで、通常 10-14 歳の女子、12-16 歳の男子に起こる。なお、思春期は肉体的な変化を伴い、女子と男子には異なった変化が起こる。女子に起こる肉体的な変化の例としては、胸が膨らむ、お尻が大きくなる、月経が始まる、陰毛・脇毛の発達などが挙げられた。男子に起こる変化の例としては、声変わり、夢精、筋肉の発達、陰毛の発達などが挙げられる。生徒たちには、このような身体的な変化が生じるのは一般的な成長の過程であるために恐れないようにと促した。

- **若年での性交とそれに伴う危険**

生徒たちは、性交によりどのようなことが伴うのか、若年での性交がなぜ悪いのか、また、なぜ子供や青少年がそのような行為を行わず、勉強に集中すべきなのかを学んだ。また、若年での性交に伴う危険やリスクには、例えば HIV/AIDS、望まない妊娠、出産時の死亡、強制結婚/早婚、瘰(ろう)などの病気等が挙げられた。月経衛生クラブは他の生徒たちに、若年での性交を行わないこと、不良グループなど、そのような行為を促すような人たちとは付き合わないようと呼び掛けた。

- **シュガーダディ（若い女の子を経済的に援助してあげるかわりに様々なタイプの見返りを求める男性）の誘惑の言葉の例**

月経衛生クラブは、生徒たちにシュガーダディの誘惑の危険性を説明し、性交の代わりに見返りを受けるようなことをしないように注意を促した。

月経衛生クラブは、シュガーダディが使う誘惑の例として「怖がらなくていいよ、全て大丈夫だから」「君を愛しているから僕のいうことを聞いて」「もし言うことを聞かないと、君を傷つけるよ」「心配しなくていいよ、食費や学校に行くためのお金をあげるから」などを挙げた。生徒たちは、とても熱心にこのセッションを楽しんでいた。また、上述のような言葉を生徒たちは実際によく耳にしており、特にバイクタクシーの運転手や、キャッサバ売りの男性がこのように言っているようだった。生徒たちは、性的な権利を守り続け、若年での性的な関係は持たないこと、そして勉強に集中することを約束した。

- **性的な暴力**

月経衛生クラブは、性的虐待、セクシャルハラスメントの問題について一無理やり体の一部（胸、お尻、腰など）を触ること、レイプ、暴行、性病、女兒への強制結婚について述べた。

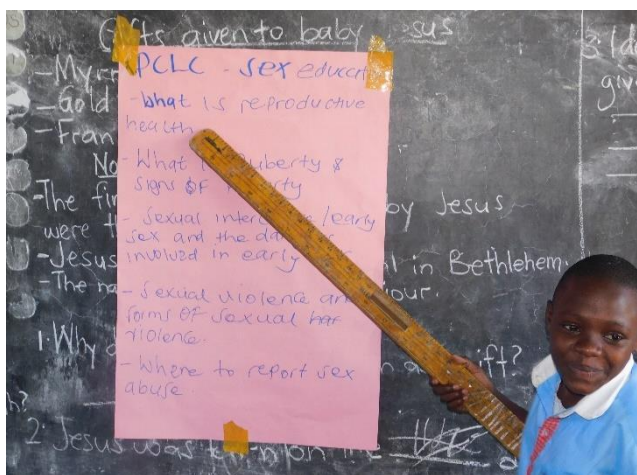
月経衛生クラブは、生徒たちにこのような行為に直面した際には、問題を解決するために、ただちに報告するように促した。

- **性的虐待、セクシャルハラスメントの報告先**

月経衛生クラブは、性的虐待、セクシャルハラスメントの被害にあった場合、どこ／誰にレポートすべきかについて、例として警察署、学校、両親、コミュニティリーダー（村長）、教会、団体、地域の政治的、実質的な指導者、年長者などを挙げた。クラブは生徒達に、性的虐待、セクシャルハラスメントの被害を受けた際には、必ずこれらのいずれかにレポートするように促した。

- **教育の重要性**

対象校 3 校における月経衛生クラブは、生徒たちに教育を重要視し続けるように説得した。教育を受けた模範となる人物としては、教員や、地方議会の女性議員（同時に首都カンパラや都市部の大臣でもある）が例に挙げられた。このように教育を受けた人たちには常に変化のチャンスがあり、自分自身の状況を改善する道がある。月経衛生クラブは生徒たちに学校を退学せずにきちんと卒業するようにと伝えた。



プレシャス・チャイルド・ラーニング・センター
月経衛生クラブメンバーの Atuhirwe Shania が性
教育について他の生徒たちに説明している様子



生徒たちが質問に答えている様子



聖ジョセフ・チバリンガ 初等学校の性教育実施の様子



話を聞く生徒たち



クラブメンバーによるルワウナ 初等学校の性教育セッション



生徒たちがクラブメンバーの質問に答えている様子

トレーニングの成果

- 生徒たちは、思春期の男女の体に起こる変化、例えば脇毛が生えたり、女子は胸やお尻が発達すること、男子は声変わりしたりすることなどについて説明できるようになった。月経衛生クラブのメンバーは他の生徒たちに、このような体の変化、発達について知っておくように説得された。

- トレーニング終了時には、生徒たちは、若年期の性交渉に伴う危険について説明ができるようになり、例として、死亡、望まない妊娠、HIV/AIDS、性交渉で移る感染症、退学等を挙げた。
- 生徒たちは、セクシャルハラスメントの事例についての知識を得、性的ないたずら、レイプ、暴力、性病、児童婚や強制結婚が挙げられるようになった。生徒たちは、このような行為を警戒し、もし被害にあった場合は、担当の政府機関等にレポートするよう説明を受けた。
- 生徒たちは、性的嫌がらせ、暴力を受けた場合に、警察、政治的・宗教的・技術的・その他のリーダー、学校、年長者、親戚など、どこ・誰に報告するかということを学んだ。
- 生徒たちは、学校で学業を貫徹する目的と教育の重要性について理解した。期待できる長期的なインパクト（効果）は、退学者が減少することである。

<おわりに>

SORAK は、パートナーである GBN、LUSH Japan のサポートにより、ウガンダのムベンデ郡の対象校 3 校において性教育、性と生殖に関する権利のトレーニングが実施出来たことに心から感謝する。月経衛生クラブは、子どもから子どもへ（生徒から生徒へ）伝える手法で、更なるトレーニングを実施することが可能となった。